

先生各位

No. 24-31
2024年7月



嫌気ポーター 容器変更のお知らせ

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。
このたび、現行の嫌気ポーター（容器No. 29）におきまして販売中止の連絡がございました。
これに伴い容器が変更となりますので、ご案内させていただきます。
先生方には大変ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒ご了承の程よろしくお願い申し上げます。

謹白

記

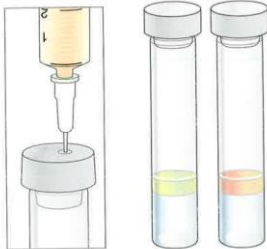
- 変更実施日 2024年9月より順次
- 対象容器

容器No.	新	現行
29		

<使用上の注意>

※ゴムキャップを外して検体を入れる場合、酸素の影響を低減するため必ず検体を寒天の奥まで挿入してください。特に*C. difficile*など酸素の影響を受けやすい菌種では、時間経過により生菌数が減少する恐れがあるため採取後は速やかにご提出ください。

<使用方法>

液体検体（穿刺液、消化液等）	固形検体（膿、糞便、組織片等）
<ol style="list-style-type: none">①穿刺部（ゴムキャップ上の小円）を消毒用アルコール綿等で消毒します。②注射針を穿刺部に垂直に穿刺し、液体検体を注入します。検体量は容器の8割を超えて入れないでください。③検体は速やかにご提出ください。やむを得ず保存する場合は、冷所保存してください。 	<ol style="list-style-type: none">①ゴムキャップを消毒用アルコール綿等で消毒します。②ゴムキャップを外し、固形検体を入れます。 <u>検体は寒天の奥まで挿入してください。</u> (注) 滅菌綿棒は長さ7cmまで入ります。 それ以上のものは切断してください。③ゴムキャップを速やかにしっかり閉めます。④検体は速やかにご提出ください。やむを得ず保存する場合は、冷所保存してください。 